

23広支交 第6号  
2024年6月10日

日本郵便株式会社広島郵便局  
局長 金築 昭生 殿

郵政産業労働者ユニオン広島支部  
支部長 増田正文 印

## 2024年度夏期繁忙及び職場に関する要求書

「2024年度中元期の重点取組事項」にもあるように、夏期繁忙期における全国の引受予想個数は、ゆうパックは対前年比で100.3%、ゆうパケットは115.0%と予想されています。広島局においてもヤマト関連郵便物の引受が始まりました。1階のレイアウト変更にともない、夏期繁忙期における輸送部の作業スペースの狭隘が懸念されます。円滑な業務の遂行および労働安全の確保のため以下の要求を提出しますので、誠意ある回答を求めます。

### 記

- 1、空パレットや以降出しゆうパックの保管場所およびヤマト引受後の完成パレットの保管授受場所等、1階作業場のレイアウトを明らかにし、輸送部の作業に支障のないよう、また労働災害が発生しないよう具体的作業方法を明らかにすること。
- 2、輸送部において、退職等により未だ十分な要員が確保されていません。大口の搬入増加による処理の改善もままならない中、結束や誤送等大きな問題を起こしかねません。社員および長期期間雇用社員の確実な要員を補充するとともに、短期期間雇用社員も余裕をもって雇用すること。
- 3、繁忙期のゆうパック処理において、多量連続供給の場合、破損ゆうパックが普段よりも多く見られます。ゆうパック区分機1シュート2名(4名供給の場合はシュート3名)の配置にし、短期期間雇用社員だけの配置は行わないこと。また取り回し作業に長期期間雇用社員が配置できるようにすること。
- 4、チルド室・冷凍室内の作業は健康面に配慮し、防寒具・手袋等を確実に準備し、長時間連続作業にならないよう休息等を多めに取らせる等の配慮を

すること。

- 5、冷凍室内の霜取り作業について、安全対策や対応を十分にせず社員に霜取りをさせています。冷凍室における霜取り作業は専門の業者に依頼すること。
- 6、夏期繁忙期は重量のある水物ゆうパックが多くなります。過積載防止対策として、過去に「米袋ゆうパックのパレットへの積載は、パレット内下3段まで」という目安が周知されました。水物ゆうパックにおいてもパレット積載の目安を示し、周知を徹底すること。また、運送業者のトラックスケールによる計量を徹底し、過積載の場合は速やかな荷下しに対応すること。
- 7、輸送部において供給者の腰痛対策としてコルセット等を配備すること。また、輸送・郵便部において事故防止の観点から、パレット上段への積み込みは極力控えるよう目安を示し周知すること。
- 8、郵便部と輸送部の差立時(特に前抜き便・臨時便)の授受がスムーズに行われるよう両部間の連絡・連携を緊密に取れる対策を講ずること。また、地域区分局間の滞留防止の観点から、広島局と中国支社との連携を拡充すること。
- 9、線状降水帯豪雨・河川の氾濫や土砂災害など自然災害発生時における出退勤には迅速・柔軟に対応すること。また、全社員を対象に緊急時（火災・防災）避難訓練を行うこと。
- 10、取集業務におけるEV車の取り扱いについて、これから気温が上昇し冷房を使用する頻度が増えることが予想されます。過去に見られた「バッテリーを保たせるために冷暖房の使用を控える」といった会社指示が行われることのないよう、適切な運用を行うこと。
- 11、今年は、去年の猛暑をさらに上回る暑さになる可能性があるとの報道もあります。昨年度以上に熱中症予防に配慮し、対策・周知を十分に行うこと。

以上